

ローマの信徒への手紙

ローマの信徒への手紙は、まだ訪れたことのないローマの信徒にパウロの福音を紹介しつつ、エルサレムを経て西方へ向かう旅を準備する手紙です。



解釈にもとづく再構成。部屋とこの場面は再構成です。手紙は、テルティオが口述を書き留め、自分のあいさつも加えたことを伝えています。

年代・確度：推定される

紀元56～57年頃

手紙は執筆都市を記しません。ブラウンによる年代体系の比較では、同じコリントの背景が少し早い時期または遅い時期に置かれます。近くのケンクレアイはフェベとの結びつきから検討の対象になりますが、独立に執筆地と特定されてはいません。

場所・確度：推定される

コリント

手紙は執筆都市を記しません。ブラウンによる年代体系の比較では、同じコリントの背景が少し早い時期または遅い時期に置かれます。近くのケンクレアイはフェベとの結びつきから検討の対象になりますが、独立に執筆地と特定されてはいません。

前後の出来事

- 紀元55／56年頃 銀細工師たちがアルテミスをめぐって暴動を起こし、パウロはエフェソを去ってマケドニアへ向かう。
エフェソ・本文で確かめられる
- 紀元55／56年頃 トロアスで宣教の扉が開かれ、パウロはマケドニアへ。テトスが朗報をもたらし、コリントの信徒への手紙二を書く――押しかけた競争相手を「偽使徒」、皮肉を込めて「大使徒たち」と呼んで自らの務めを弁明し、弱さを誇る。
アレクサンドリア・トロアス→マケドニア・本文で確かめられる
- 紀元55／56年頃 パウロはマケドニア人を励まし、献金を組織し、イリリコンに至るまで宣教する。
マケドニア→イリリコン・推定される
- 紀元56／57年頃 パウロはギリシアに3か月滞在してローマの信徒への手紙を書き、陰謀のため帰路を変更する。
コリント→ケンクレアイ・本文で確かめられる
- 紀元57年頃 パウロはフィリビから出航する。トロアスではエウティコが転落し、命を取り戻す。
フィリビ→アレクサンドリア・トロアス・本文で確かめられる
- 紀元57年頃 パウロは沿岸を南下し、五旬祭までにエルサレムに着くため、エフェソを通過して急ぐ。
アソス→ミティレネ→キオス→サモス→ミレトス・本文で確かめられる

本文から確かめられること

本文で確かめられる

ローマの信徒への手紙は、まだ訪れたことのないローマの信徒にパウロの福音を紹介しつつ、エルサレムを経て西方へ向かう旅を準備する手紙です。

受取人は、数多くの名指しされた関係と家の集まりにまたがる、ローマのユダヤ人信徒と異邦人信徒の混じり合ったつながりです。

10分で紹介するための流れ

- ローマの信徒への手紙は、まだ訪れたことのないローマの信徒にパウロの福音を紹介しつつ、エルサレムを経て西方へ向かう旅を準備する手紙です。
- ローマの信徒への手紙は、献金のマケドニアとコリントの段階の後、エルサレムへの出発と、使徒言行録が語る後のローマでの拘禁の前に位置します。
- パウロ書簡の年表では、コリント、西暦56～57年ごろが、パウロのエーゲ海地域での働き終わり近くに置かれる有力な再構成です。
- エルサレム行き以前という枠組みを保ちながら、パウロのコリント滞在の少し早い時期または遅い時期にローマの信徒への手紙を置く再構成もあります。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). ― 第24章「ローマの信徒への手紙」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). ― 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/romans>

考える別の読み方

エルサレム行き以前という枠組みを保ちながら、パウロのコリント滞在の少し早い時期または遅い時期にローマの信徒への手紙を置く再構成もあります。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。